

基礎看護学方法論Ⅰ

看護過程演習学習の視点

|                                    |   | 視点  | 評価尺度   |   |  |   |  |   |   |  |
|------------------------------------|---|---|--|---|--|---|--|---|---|--|
|                                    |   |   | A ( 15点 )  | B ( 13点 )   | C ( 10点 )  | D ( 5点 )  |  |   |   |  |
| 1. 科学的根拠に基づいたアセスメントができる。           | 1) ゴードン機能的健康パターンに沿って情報を整理することができる。              | 2) Sデータ・Oデータにわけて情報を整理することができる。                | 3) 情報を解釈することができる。  | 4) 解釈に基づき、仮診断を導きだすことができる。   | <input type="checkbox"/> 1. カテゴリーの定義に基づき情報収集ができる<br><input type="checkbox"/> 2. 情報は目的・系統的・意図的にとれている<br><input type="checkbox"/> 3. S情報は対象の言葉のまま記載できる<br><input type="checkbox"/> 4. O情報は観察された結果が解釈せずに記載できる<br><input type="checkbox"/> 5. 得た情報は全て解釈できている<br><input type="checkbox"/> 6. 情報の解釈では「判断・分析・推測・選択」の視点で客観的にできている。<br><input type="checkbox"/> 7. 情報の解釈において他カテゴリーとの関連も考えることができる。<br><input type="checkbox"/> 8. 情報-情報の解釈-仮診断は整合性がある<br><input type="checkbox"/> 9. 問題焦点型、ヘルスプロモーション型、シンドローム型において診断指標が単数情報として存在している。<br><input type="checkbox"/> 10. リスク型においては危険因子が単数情報として存在している。 | 対象の看護に必要な情報を適切な時にとることができる。<br>また、収集した情報を十分な知識を基に判断・分析・解釈・推測し、仮診断を導きだすことができる。  | 対象の看護に必要な情報を概ねとることができる。<br>収集した情報の解釈に知識の活用が十分ではないが概ね対象の状態に合った仮診断を導きだすことができる。   | 対象の看護に必要な情報は最低限とることができる。<br>収集した情報の解釈に知識の活用は不十分で、対象の状態に応じた仮診断を導きだすことに課題がある。                     | 看護に必要な情報に不足がある。<br>また、収集した情報の解釈に知識の活用不足が明らかであり、対象の状態に応じた仮診断を導きだすことができない。                                  |  |
| 2. 対象の看護上の問題点(看護診断)を明確にできる。        | 1) 対象の個別性を踏まえた関連図を記載することができる。                   | 2) 必要時仮診断間の関連性を考え統合できる。                       | 3) PES方式を用いて関連因子を特定することができる。   | 4) 看護診断を確定することができる。   | 5) 看護診断の優先順位を決定することができる。   | <input type="checkbox"/> 1. 病態の成り行き、症状、生活への影響が表されている。<br><input type="checkbox"/> 2. 関連図の記載ルールが守られている。<br><input type="checkbox"/> 3. 仮診断まで導いた思考過程が記載できている。<br><input type="checkbox"/> 4. 関連性のある仮診断を統合することができる。<br><input type="checkbox"/> 5. 必要時、P:問題 E:原因・誘因 S:症状、徴候が考えられている。<br><input type="checkbox"/> 6. 必要時、PES方式で関連因子の特定ができている。<br><input type="checkbox"/> 7. 関連因子は看護で解決可能なものが導きだせている。<br><input type="checkbox"/> 8. 自分が導いた看護診断が問題焦点型、リスク型、シンドローム型、ヘルスプロモーション型どれなのか理解できている。<br><input type="checkbox"/> 9. 看護診断の表記が正しく記載できている。<br><input type="checkbox"/> 10. 問題焦点型、シンドローム型、ヘルスプロモーション型においては診断指標が複数存在している。 | カテゴリー間の関連を明確にして、今の対象の全体像を適切に捉えることができる。<br>また、診断指標や関連因子から対象に必要な看護診断を明確にすることができ、優先順位を的確に決定できる。<br>また、対象の状態に応じて優先順位を根拠を明確にして変更することができる。 | 情報の解釈の知識の活用が十分ではないがカテゴリー間を関連づけながら対象の全体像を捉えることができる。<br>診断指標、関連因子から対象に必要な看護診断を明確にできるが、優先順位に課題が残る。 | 情報の解釈における知識の活用は不足があるが、カテゴリー間を関連づけながら対象の全体像を概ね捉えられ、<br>対象に必要な看護診断は明確にできるが、診断指標、関連因子が不足している。<br>優先順位に課題が残る。 | 情報の解釈における知識の活用が不十分でカテゴリー間を関連づけが弱く対象の全体像を捉えられていない。<br>そのため、対象に必要な看護診断に一部適切さに欠けるものがあり、優先順位にも課題が残る。 |
| 3. 対象の看護上の問題を解決するための看護計画が立案できる。    | 1) 長期目標を設定することができる。                             | 2) 短期目標を設定することができる。                           | 3) 目標を達成するための看護計画を立案することができる。  | <input type="checkbox"/> 1. 長期目標が患者主語で記載できている。<br><input type="checkbox"/> 2. 達成期日が記載できている。<br><input type="checkbox"/> 3. 長期目標は診断の解決を示している。<br><input type="checkbox"/> 4. 短期目標が患者主語で記載できている。<br><input type="checkbox"/> 5. 関連因子、危険因子と関連している。<br><input type="checkbox"/> 6. RUNBA(ルンバ)の法則を用いて記載できている。<br><input type="checkbox"/> 7. O-P T-P E-P が存在している。<br><input type="checkbox"/> 8. O-Pは診断の経過、目標の達成、看護実践中の対象の反応を判断することができる項目がある。<br><input type="checkbox"/> 9. T-Pは短期目標を達成することができる内容が5W1Hで記載されている。<br><input type="checkbox"/> 10. E-Pは短期目標達成できる指導内容が記載されている。<br><input type="checkbox"/> 11. 看護診断-目標-看護計画に一貫性がある。 | 関連因子から実現可能な目標を設定し、対象に必要な具体性のある計画を立案でき、必要に応じて計画を追加・修正することができる。  | 関連因子から実現可能な目標を設定でき、対象に必要な計画を立案できるが、具体性には課題が残る。  | 実現可能な目標は立てられるが、対象に必要な計画に不足がみられ、かつ計画には具体性に欠けるところがある。  | 一部実現性に困難さのある目標であり、対象に必要な計画も足りず計画の具体性には課題が多い。  |   |  |
| 4. 優先順位を考え、看護計画に基づいて援助が実施できる。      | 1) 対象の状態を判断しながら、介入すべき看護の優先順位を考慮することができる。        | 2) 援助の際に、患者の反応を確認することができる。                    | <input type="checkbox"/> 1. その日の介入すべき看護問題の優先順位を決定できる。<br><input type="checkbox"/> 1. 看護実践は安全・安楽・自立が配慮されている。<br><input type="checkbox"/> 2. 根拠に基づいて実践できる。<br><input type="checkbox"/> 3. 人・物を最大限にいかして実践できる。<br><input type="checkbox"/> 4. 看護実践において起こりうる結果を予測できる。<br><input type="checkbox"/> 5. 対象の反応を確認しながら看護実践できる。   | 実施してよいかを適切に判断でき、実施にあたっては対象の反応を見逃さず適切な方法で安全を確保しかつ安楽・自立・個別性を考慮した看護実践ができる。   | 実施してよいかを適切に判断でき、実施にあたっては対象の反応を十分に捉えられず、安全・安楽は意識しているものの一部安楽とはいえない実施もあり、対象の満足度も高くない。   | 実施してよいかの判断が出来ない時があり、実施にあたっては対象の反応を十分に捉えられず、一部安全・安楽・自立とはいえない実施もあり、対象の満足度も低い。   |  |   |   |  |
| 5. 実施した看護を評価できる。                   | 1) 情報収集から実施までの全過程を振り返り、適切性を論理的思考に基づき評価することができる。 | 2) 評価に基づき、必要時追加・修正を行い患者の状態に応じた看護を常に考えることができる。 | <input type="checkbox"/> 1. 看護実践が期待される結果に至ったか判断できる。<br><input type="checkbox"/> 2. 得られた結果の根拠を客観的に考えることができる。<br><input type="checkbox"/> 3. 目標達成できなかった場合、看護過程の各段階に視点をひいて考えることができる。<br><input type="checkbox"/> 4. 毎日、対象の状態に応じた行動目標を考えることができる。<br><input type="checkbox"/> 5. 対象の状態に応じた行動計画を立案でき、追加・修正できる。<br><input type="checkbox"/> 6. 計画立案後、SOAP記録は看護診断毎に記載できる。<br><input type="checkbox"/> 7. 日々の看護実践から目標の見直し、看護計画の追加・修正ができる。<br><input type="checkbox"/> 8. リフレクションで自己の関わりを俯瞰し看護について考えることができる。 | 看護実施の結果を客観的に捉えることができ、実施した看護が目標達成に繋がっているかを根拠をもって評価することができる。<br>また、評価したことをもとに必要時、追加・修正を行い対象の状態に応じた看護を導きだすことができる。  | 看護実施の結果を客観的に捉えることができるが、実施した看護が目標達成に繋がっているかの評価は学生の主観を基にされている。<br>また、評価したことをもとに必要時、追加・修正を行い対象の状態に応じた看護を導きだすことは難しい。   | 看護実践の結果や実施の評価に学生の主観が多く含まれている。<br>さらに、対象の状態に応じた必要な追加・修正が不足している。  | 看護実践の結果や実施の評価が学生の主観になっている。<br>さらに、対象の状態に応じた必要な追加・修正が不足している。  |   |   |  |
| 実習目標                               |   | 視点  | A ( 13点 )  | B ( 8点 )  | C ( 5点 )   | D ( 3点 )  |  |   |   |  |
| 6. 対象との関わりを評価し、好ましい患者-医療者関係が理解できる。 | 1) 看護を実践した自己を振り返り、看護について考えることができる。              | 2) 対象を尊重した関わりを行うことができる。                       | 3. 学びを発展させて学習することができる。   | <input type="checkbox"/> 1. 看護を実践した自己を振り返り、看護について考えることができる。<br><input type="checkbox"/> 2. 対象を尊重した関わりを行うことができる。<br><input type="checkbox"/> 3. 学びを発展させて学習することができる。  | 自分の行動を内省し、学び-気づきを文献から意味づけ、自己の課題を明確にしてよりよい看護につなげることができる。また、対象に関心をよせ、わかりやすい説明やケア時の声かけなど適切に行うことで、対象の自己決定を支援することができる。  | 自分の行動を内省し、文献からの学び-気づきの意味づけに課題が残るが自己の課題を考えることができる。また、対象に関心をよせ、わかりやすい説明やケア時の声かけなどは行いが対象の自己決定を支援するには至らない。  | 自分の行動の内省や文献からの意味づけは浅いが、自己の課題を考えることができる。また、同意は得ているものの、説明には不十分さがあり、相手に関心を寄せられていないと思える関わりをするところがある。                                     |   |   |  |